

糸我小学校だより

令和元年6月14日



小学校外国語の取り組みについて

あじさいが美しく彩りを添える季節を迎えました。1学期も2か月が過ぎ、それぞれの学年、学級での活動に一所懸命に取り組んでいる子供たちの姿が見られます。今月は、小学校外国語の取り組みについてお伝えします。

小学校外国語が令和2年4月から全面実施されます。それに先立って有田市では昨年度より、3・4年で外国語活動として年間35時間、5・6年で外国語として年間70時間授業を実施しています。また、以前の外国語活動のなかで扱う語数はとくに定めはありませんでしたが、これからは小学校の学習で600～700語程度ふれると定められています。

また、単に語彙が増えるというだけでなく、学習を通して「聞く・話す・読む・書く」の力を育てることもなっています。3・4年では、これまで高学年で行っていた外国語活動を踏襲して、「外国語に親しむとともに自分や身の回りのことについて質問したり答えたりする」ということが目標となっています。

大きく変わったのは、教科として位置付けられた5・6年です。中学年で学習した簡単な語句や基本的な表現を繰り返し学習しながら、「読む、書く」の活動も加えて学習します。そして、「状況に応じて質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようになる」ということも目標になっています。外国語による会話のなかには、過去形や3人称や“can”等の助動詞も扱いますが、中学校のように「文法事項」として指導したり、単語を確実に習得させたりということは求めません。会話が続けられるように、習った表現を身に付けるということが指導の中心となります。

本校では、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」を目標に、指導内容、指導体制の充実を図っています。



不審者対応防犯訓練

5月31日（金）に、有田市青少年センター長 児島昭人氏を講師にお迎えして、不審者対応防犯訓練を行いました。この訓練の目的は、「児童自身が不審者から自分の身を守る力を身に付ける」でした。

はじめに、画像を見ながら、標語「いかのおすし」について教えていただきました。「知らない人についていかない」「他人の車にうらない」「おおごえを出す」「すぐ逃げる」「何かあったらすぐしらせる」の波線部をつなげたもので、誘拐などから子供自身が身を守るための行動をまとめたものです。以前に学んだことのある子供が多く、いい復習の機会になりました。

次に、動画を見ながら道路等で不審者に出会ったときの対応について教えていただきました。「走って逃げる」「ロケットダッシュ」「ジタバタする」について学び、子供の中から代表者が2名ずつそれぞれの対応の仕方を体験し、みんなで動きを確認しました。

「走って逃げる」では、怪しい人がいたら4m以内には近づ



かないようにし、そして素早く走って逃げることを学びました。走って20m距離をあければ、不審者は追いかける意欲を失うことを教わりました。

「ロケットダッシュ」では、不審者に後ろから腕や肩を両手でつかまれたとき、①で両腕をサイドにあげ、②でしゃがみ、③でダッシュして逃げるといった動きを教わりました。

「ジタバタする」では、前から腕をつかまれたときに、地面におしりをつけて座り、大声を出しながら、足をバタつかせたり、不審者のひざ下を蹴ったりすること。前から不審者がかまえてきたとき、地面におしりをつけて座り、足をバタバタしてつかまれないようにすることを教わりました。こうすることで、時間をかせいだり、相手にあきらめさせたりすることができるということでした。

センター長さんが分かりやすく教えてくださるとともに、体験したり、それを見たりして、子供たちは不審者への対応の仕方をよく理解することができたと思います。

お家でも、お子さんと対応の仕方を練習してもらえるとありがたいです。そして、もしものときに、うまく逃げられるようになっておいてほしいです。

宿泊行事

<自然教室>

5月28日（火）・29日（水）に、5年生が白崎青少年の家で実施。



<修学旅行>

6月10日（月）・11日（火）に、6年生が行ってきました。



親の役割

子供を育てるにあたり、親の役割はとても大切です。

子供は親の姿を見て育つと昔から言われています。親が何をしているのか、何を言っているのか、見ていないようで見ているのが子供です。私たち大人の言動をじっと見て、判断しているのです。

口でよいことを言っても、行動が伴わなければ、口先だけでよいと思う子になるでしょう。あまり口うるさく言わなくても、必死に生きて行動している親を見れば、子供も必死に生きようとするでしょう。他人に優しく接し、その人のよいところを見つけ出そうとしている親を見れば、子供も他人の悪口は言わないでしょう。

子供は、その環境によって自分の人生の多くが決められます。特に小学生という感受性が強いときの環境は大切です。

しつけや行動、人の優しさや言葉づかい、社会のルールや正義など何を教えるのかよく考え、その時の役割やその状況に応じて話していくことが大切です。



